

第14号の刊行にあたって

モンテ・カセム（立命館大学国際平和ミュージアム館長）

2012年5月19日、立命館大学国際平和ミュージアムは開設20周年を迎えました。1992年の開設以来、立命館大学の教学理念「平和と民主主義」および「人類的課題に取り組む地球市民の育成」（立命館憲章）という目的をもとに、過去の戦争の事実と向き合い、平和を創造する主体の形成のための社会開放施設として、国際平和ミュージアムにはこれまで通算80万人を超える来館者が訪れています。

国際平和ミュージアムでは「地球市民の記憶と未来。世界へ発信する平和教育の新たな歩み」をキーワードとして、さまざまな記念事業に取り組んでまいりました。2012年11月30日には立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにて、「平和研究所の軌跡・課題・可能性」というテーマで国際シンポジウムを開催しました。基調講演者として日本における国際政治学の第一人者である坂本義和東京大学名誉教授を、また来賓として2012年にノーベル平和賞を授与されたEU（欧州連合）からハンス=ディートマール・シュヴァイスグート欧州連合代表部大使をお迎えし、今日の平和学研究の意義と重要性についてご講演をいただきました。またパネル・ディスカッションとして、君島東彦国際関係学部教授の司会のもと、古沢希代子東京女子大学教授、佐藤安信東京大学教授にご参加いただき、国内外の平和研究所の現状や課題について討議が行なわれました。ここでは、このシンポジウムの記録として、坂本義和氏の基調講演とハンス=ディートマール・シュヴァイスグート氏の報告を取録しています。

また開設20周年記念特別展示として5月15日から7月27日まで、安斎育郎国際平和ミュージアム名誉館長の監修のもと「放射能と人類の未来」と題する特別展を開催しました。この特別展では、立命館大学・附属校の多くの教員・学生の協力を得て、福島原発事故を踏まえた放射能リテラシーの必要性を訴えました。なかでも立命館大学映像学部の北野圭介教授、大島登志一教授、渡辺修司准教授の協力により、バーチャル・リアリティやゲームを通じての体験型展示を行ないました。今後国際平和ミュージアムが立命館大学の誇る先端的な知的・技術的リソースを結集し、訴求力の強い展示手法の開発に取り組むうえで、重要な共同作業を開始することができました。ここでは、今回の特別展の成果として、北野教授、大島教授、渡辺准教授の共同執筆による博物館展示のための研究報告を取録しています。

開設20周年を経て、立命館大学から世界に向けての平和学研究と平和教育の発信地として、そして戦争と平和を考えるための新たな展示手法に取り組む博物館として、今後も多くの研究を発信してまいりたいと思います。

